



英國產業協議會制度ノ研究(2)

丸谷, 喜市

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 31(1):51-72

(Issue Date)

1921-07

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053332>



英國產業協議會制度ノ研究 (其二)

神戸高等商業學校教授

商學士 丸 谷 喜 市

四 產業協議會ノ設立及組織

產業協議會ノ設立ハ當事者ノ任意デアル。即チ一產業ニ就テ產業協議會ノ制度ヲ採擇シ設置スヘキヤ否ヤハ當事者タル資本主及勞働者ノ意思ニ依テノミ決セラルベキモノトセラレ、政府ハ之ガ設置ニ就テ諸種ノ便宜ヲコン計レ、干涉ヲ行ヒ強制ヲ加フル如キコトハ極力之ヲ避ケテ居ル。況ンヤ法律ヲ以テ此制度ヲ規定シ其設置ヲ命スルガ如キコトハ初カラ問題トセラレナカツタノデアル。

次ニ產業協議會ノ設立ニ就テハ原則トシテ資本主側及ビ勞働者側ノ雙方ニ於テ組合組織ノ充分ニ發達シテ居ルコトガ前提トサレテ居ル。詳言スレバ或ル產業ニ就テ產業協議會ヲ組織スルニハ前提トシテ當該產業ニ於ケル勞資雙方ノ組合組織、即チ勞働組合及ビ資本主組合ガ充分ニ發達シテ居リ之等ノ組合ガ當事者タル勞働者及ビ資本主ヲ略ボ完全ニ代表スルモノト看做シ得ベキ狀態ニアルコ

トガ要件トセラレルヲデアル。此事ハフキトレー委員會モ英國政府モ共ニ將來ニ於ケル産業協議會制度成功ノ一前提要件トシテ大ニ重キヲ置ク所デアル。但シ或ル産業ニ於ケル組合發達ノ程度ガ協議會ヲ組織スルニ足ルノ狀態ニ達シテ居ルカ否カラ判斷スルコトハ全ク當事者タル資本主及勞働ノ見解ニ一任セラレテ居ル。又此事ハ政府ノ希望ニ過ギヌノデアツテ、組合組織ノ發達不充分ナル産業ニ在テハ絶對ニ協議會ヲ組織スルヲ得ズトスルノ意味デハナク、又事實不充分ナル組合組織ノ基礎ノ上ニ設置サレタ協議會モ多少無イデハナイ。

次ニ産業協議會ノ組織ニ就テ見ルニ茲ニモ英國流ノ自由主義ガ現ハレテ居ルノデ、フキトレー委員會ノ報告ニハ、各産業、各地方皆特殊ノ事情ヲ有スルガ故ニ産業協議會ノ内部組織ノ問題ニ關シテ豫メ一律不變ノ規定ヲナスコトハ不可能デモアリ、又無用デモアルト言フ理由カラ餘リ詳細ニ涉ルコトヲ避ケ、極メテ大體ノ標準ヲ示スニ止メテ居ル。依テ茲ニモ大體ニ就テ共通ノ點ノミヲ述ベルコトトスル。

先ツ全體トシテノ組織ヲ言フナラバ産業協議會ハ次ノ三段ノ合議體カラ成立ツモノデアル。

(一) 全國產業協議會 (National Joint Industrial Council)

各產業ニ就テ全國ノ資本主及勞働者ヲ代表スル機關デアル。

(二) 地方產業協議會 (District Joint Industrial Council)

前者ト同様ノ性質ヲ有スル地方的ノ機關、即チ一地方若クハ一地域ヲ代表スル機關デアル。問題ニ依テハ全國的ニ取扱フヨリモ地方的ニ取扱フ方ガ適切ナ場合モ少クハナイノデアアルガ、地方產業協議會ノ働クベキ分野ハ即チ之ニアル。

(三) 工場委員會 (Works Committee)

上述ノ二者ハ各產業ニ就テ全國或ハ一地方ノ全般ニ亘ル代表機關デアアルガ具體的ナル經濟活動ノ單位内ニ於ケル合議體デハナイ。然ルニ工場委員會ハ現實ナル經濟活動ノ單位タル企業若クハ經營内ニ於ケル合議體デアル。若シ企業者ノ獨裁的經營ト言フコトテ以テ現代資本制經濟組織ノ本質的事實ノ一ト見ルベシトスルナラバ、企業ノ内部ニ於テ勞働者ノ發言ト參與トヲ許ス工場委員會ノ制度ハ吾人ノ經濟生活ニ極メテ新シイ要素ヲ齎スモノトシテ大ナル注目ニ値スルモノト言ハナケレバナラヌ。此意味ニ於テ工場委員會ノ制度ハ前ノ二者即チ全國產業協議會及ビ地方產業協議會ニ勝ルトモ劣ラヌ重要ナル意義ヲ有スルモノ

ト言ハナケレバナラヌ。

工場委員會ハ或ハ現場委員會ト言フ方が適當カモ知レヌ。何トナレバ之ハ當ニ工場ノミニ限ラレタル委員會デハナクテ、鑛坑委員會 Pit Committee 石切職工、市街鐵道從業員等ノ委員會ナモ含ムモノデアルカラデアル。又必ズシモ一個ノ工場ニ限ラズ、一企業ニ屬スル數個ノ工場ニ亘テ設ケラレルコトモアル。故ニ大體ニ於テ獨逸ノ經營會議 Betriebsräte ニ當ル次第デアルガ、外ニ綜合經營會議 Gesamtbetriebsräte ニ當ルモノチモ含ムデ居ルツケデアル。但シ獨逸ノ經營會議ハ勞働者及使用人ノミカラ成立テ居ル點ニ於テ英國ノ工場委員會ト相違スルモノデアル。

以上三ツノ機關ニハソレゾレ特殊ナル仕事ノ分野ガアツテ、其經濟上ニ於ケル重要ノ程度ヲ分ツコトハ困難デアルガ、職制ノ上カラハ其間ニ上下ノ秩序ガアツテ工場委員會ノ決議ハ地方産業協議會ノ決議ニ抵觸スルヲ得ズ、地方産業協議會ノ決議ハ全國産業協議會ノ決議ト矛盾スルコトヲ得ナイ。即チ下級ノ合議體ハ常ニ上級合議體ノ決定ノ範圍内ニ於テ細目ニ就テ協議スルコトトナツテ居ルノデアル。加之協議會ノ設置ニ就テハ地方産業協議會及工場委員會ノ設置ハ通常全國産業協議會ノ決定ニ依ルベキモノトセラレ居テル。即チ全國産業協議會ハ地方産業協議會及ビ工場委員會ヲ設置スヘキヤ否ヤヲ審議シ各地ノ資本主組合及ヒ勞働組合ト商議シテソノ管掌區域及ヒ職務ヲ定メルノデアル。且ツ全國産

業協議會ノ會員タル勞資雙方ノ代表者ハ職務上當然ニ地方産業協議會ノ會員トナルベキモノデアル。

上述全國産業協議會地方産業協議會及ヒ工場委員會ト言フ三段ノ組織ハ理想デハアルガ、此三段ノ組織ハ必スシモ常ニ全部揃テ設ケラレテ居ルワケデハナイ。或ル産業ニ於テハ全國産業協議會ノミ組織セラレテ地方産業協議會及ヒ工場委員會ハ未ダ組織セラルルニ至テ居ラス。或ル産業デハ工場委員會ノ組織先ツ成立ツタガツレ以上ノ協議會ガ成立シテ居ラスモノモアル。又組合組織發達ノ狀態如何ニ依テハ——例ヘバ或地方ハ非常ニ發達シテ居ルガ他ノ地方デハンノ發達極メテ不充分ナルガ如キ場合ニハ——全國産業協議會ヲ設ケルヨリモ先ツ組合組織ノ發達セル地方ニ就テ地方産業協議會ヲ設クルヲ適當トスベシトハフヤトレ

一 委員會自身ノ指示スル所デアル。

尙ホ之等三種ノ合議體ハ共ニ定時及ビ臨時ニ會議スヘキ常設ノ機關デアル。

故ニ産業協議會ハ精細ニハ之ヲ常設産業協議會 Joint Standing Industrial Council ト呼ブコトニナツテ居ル。

産業協議會ヲ構成スヘキ代表者ノ數ニ就テハ勞働者側及資本主側カラ同數ヲ

出スコトヲ以テ原則トスル。但シ工場委員會ハ之ニ對シテ一ノ例外ヲナスモノデアル。工場委員會ノ場合ニハ性質上資本主側カラ勞働者側ト同數ノ代表者ヲ出スト言フコトハ困難ナ場合ガ多ク、且ツ必スシモ其必要ハナイカラ此場合ニハ右ノ原則ヲ固持スルコトハシテ居ナイ。

産業協議會ノ役員トシテハ議長、副議長ヲ選ミ書記ヲ置クコトニナツテ居ル。外ニ會計係、監査人等ヲ置クモノモアル。

議長ハ資本主側カラ出ルコトモアリ、勞働者側カラ出ルコトモアル。若シ一方ガ議長ヲ出セバ他方ハ副議長ヲ出スト言フコトハ最モ普通ニ行ハルル所デアル。或ハ雙方ヨリ議長一名ヅツヲ出スト言フ方法モアリ、又或ハ勞資以外ノ第三者ヲ以テ議長トスル場合モアル。若シ雙方カラ一名ツツ議長ヲ出シタ場合ニハ各議長ハ會議毎ニ交代シテ議長席ニ就クコトトスル。議長ハ表決權ヲ有スルケレトモ Casting Vote ヲ有タスモノトスルノガ普通デアル。

書記ハ資本主側及勞働者側雙方ヨリ一名ヅ、出スノガ普通デアル。

此外ニ顧問トシテ勞働大臣ノ指名スル一二名ノ官吏 (Liaison officer) ヲ参加セシムルヲ通例トスル。勿論此官吏ノ指名ハ協議會側カラノ要請アツテ初メテ行ハ

ルモノデアル。コノ官吏ニハ固ヨリ表決權ハナイ。

産業協議會ハ委員ヲ選定シテ實行委員會ソノ他必要ニ應シテ諸種ノ委員會ヲ組織スル。委員會モ亦勞資同數ノ人員ヨリ成ルコトヲ原則トスル。

産業協議會及ビ其委員會ニハ必要アル場合ニハ顧問トシテ専門家ソノ他特殊ノ智識經驗ヲ有スル者ヲ参加セシムルコトヲ得ル。但シ之ガ爲メニハ産業協議會若クハ委員會ノ全員ノ贊成ヲ必要トスル。

五 産業協議會ノ目的及職務

産業協議會ノ窮極ノ目的ハ勞働者對資本主關係ヲ安定且ツ鞏固ナル基礎ノ上ニ置キ、以テ之ヲ恒久的ニ改善セントスルニアル。ソノ直接ノ目的ハ勞働者及資本主雙方ノ利害ニ關スル問題ハ總テ兩者ノ合議ニ依テ決セシメヨト言フコトニアル。後者ノ目的ハ前者ノ目的ニ對シテ手段タリ過程タルノ關係ニ立ツコトハ言フマデモナイ。

茲ニ産業議會制度案ノ言葉ヲソノ儘ニ「勞働者及資本主雙方ノ利害ニ關スル問題云々」ト言タガ、コノ言葉ハ解釋ノ致シ方ニ依テハ廣狹如何様ニモ見ルコトノ出

來ル言葉デアツテ之ヲ極メテ廣ク解スルナラバ産業上ノ何レノ問題ト雖モ勞働者及資本主雙方ノ利害ニ關セザル問題ハナイト言テ差支ハナイ。而シテ此言葉ガ如何ニ解釋セラルベキカノ問題ハ總テ英國現在ノ資本制經濟組織ガ如何ニシテ體貌ヲ變フベキカノ問題デ極メテ重大ナ事柄ト言ハネバナラス。何レニセヨコノ問題ヲ解釋スルコトハ事實上主トシテ個々ノ産業協議會ツレ自身ノ仕事トナルコト、思フガ、此問題ハ當ニ言葉ト論理トニ依テ解決セラルベキデハナク、産業協議會ノ將來ニ於ケル經驗ト能力トニ依テ解決セラルベキ問題デアルト思フ。

以上ハ産業協議會ノ目的隨テシテ職分ヲ抽象的ニ言タノデアアルガ、次ニシテ目的ヲ達スル爲メニ産業協議會ハ如何ナル仕事ヲスルノデアアルカ、ソノ具體的ノ職務ハ何デアアルカト言フコトヲ述ベタイト思フ。此問題ニ就テハ大體フキトレ一委員會ノ報告及ビ政府ノ參考案ニ基キ、且ツ全國産業協議會、地方産業協議會、工場委員會ノ三者ニ就テ別々ニ論述スルコトヲ便宜トスル。先ヅ全國産業協議會ノ職務カラ述ベルコトトスル

全國産業協議會ノ職務ハ主要職務ト附隨職務トノ二ツニ分ケテ考ヘルコトガ出來ル。主要職務ハ適宜地方産業協議會又ハ工場委員會ニ依囑シテ之ヲ行フコ

トヲ得ルモノデアルカラ、又之ヲ之等三種ノ合議體ノ總テヲ包括スル意味ニ於ケル産業協議會全體ノ職務ト見ルコトヲ得ルモノデアル。

全國産業協議會ノ主要職務ハ次ノ如クデアル。

(一) 勞働者ノ實際的智識及ビ經驗ヲヨリ能ク利用スベキ方法ノ講究

勞働者ノ智識及ビ經驗ヲ利用スルコトガ如何ニ必要デアルカト言フ事ヲ示スベキ一ツノ實例ヲ舉グルナラバ、曾テ英國ノ某會社ニ於テ生産増加ノ目的ノ爲メニ組合以外、熟練勞働者以外ノ者ヲ以テ勞働者ノ増員ヲ行ハントスルノ議ガ起ッタ。然ルニ其會社ノ鑄型工場ノ職工等ハ之ニ反對シタノデ支配人ハ、然ラバコノ方法以外ニ生産増加ヲ來スベキ何等カノ名案ガアルナラバ夫レヲ言フテ貰ヒタイト言タ所ガ、職工等ハ、備品ノ増加ニ依テ容易ニ之ヲ行ヒ得ベシト信ズル旨ヲ答ヘタ。ソコデ道具ノ目錄ヲ示シテ、ソノ必要トスルモノヲ指定サセタ所ガ、彼等ハソノ中カラ約二千磅ニ當ル諸道具ノ買入ヲ求メタ。會社ハ此要求ヲ容レテ備品ノ増加ヲ行タ結果ハ、別ニ勞働者ノ増員ヲ行フニ及バスシテ五割ノ生産増加ヲ見ルコト、ナッタ。(Ministry of Labour, Industrial Reports No.2, P.32)

(二) 勞働條件ノ決定及ビ實施ニ就テ、勞働者ニ對シテヨリ大ナル參與ト責任ト

ヲ附與スベキ方法ノ講究

一二ノ例ヲ舉グルナラバ靴工業ニ於ケル協議會ハ小委員ヲ設ケテ採光、醫術的検査、清潔、通風、手洗設備、應急手當、肺患傳染豫防等ノ諸問題ヲ研究セシメ、又建築業協議會ノ安全及幸福委員ハ新築、改築、取崩ノ場合ニ於ケル危險防止ノ問題ニ就テ詳密ナル研究ヲ遂ゲテ居ル。

(三) 雇傭條件——賃銀ノ決定、支拂及更正方法ヲモ含ム——ニ關スル一般の原則ヲ樹ツルコト。

例ヘバ陶器業ノ協議會ニ於テハ製品ノ價格トノ賃銀ト關係ニ就テ研究シタコトガアル。

(四) 資本主及ビ勞働者間ニ於テ起ルコトアルベキ爭議ヲ防止スル目的ヲ以テ又若シ斯ノ如キ爭議ノ起リタルトキハ之ヲ融和的ニ處理スル目的ヲ以テ兩者間ニ制規ノ交渉方法ヲ設クルコト

例ヘバ樂器製造業ノ協議會デハ小委員トシテ和解委員會ガ組織サレテ居ル。
又毛氈製造業デハ協議會自身ソノ内部ニ一ノ裁決會議 (Arbitration Court) ヲ設ケテ居ル。

(五) 勞働者ニ對シ可成的ソノ所得ノ安定ヲ計リ失職ノ憂ナカラシムベキ方法ヲ講究スルコト、但シ之ガ爲メニ轉業及ビ轉傭ヲ無用ニ制限セザランコトヲ要ス。

(六) 賃銀支拂方法ニ關スル細則ノ決定

(七) 技術的教育及實習ニ關スル諸問題ノ考查

(八) 産業上ノ諸研究及ビ其結果ヲ充分ニ利用スルコト。

例ヘバ建築業ノ協議會ニ於テハ科學的管理法委員ヲ作り、能率法ノ研究ヲ行テ居ルガ、其結果ハ政府當局モ尠カラズ利益ヲ享ケテ居ルトノコトデアル。

又例ヘバ絹糸工業ニ關スル協議會デハ小委員ヲ設ケテ疲勞研究ヲ行テ居ル。

(九) 勞働者ノ考案ニ係ル發明及ビ改良ノ審査及利用ヲ容易ナラシメ、且ツ之等發案者ノ權利ヲ擁護スベキ方法ヲ講究スルコト

(十) 生産過程、機械及生産組織ノ改善ニ就テ考查シ、産業上ニ於ケル諸實驗ヲ考查シ、且ツ適當ナル範圍内ニ於テ管理經營ニ關スル諸問題ヲ研究スルコト

(十一) 各産業ニ關スル諸法案ノ考查

例ヘハ道路交通業ニ於ケル産業協議會ハ立法小委員會ヲ設ケテ此任務ヲ行テ居ル。

以上ハ全國產業協議會ノ職務トシテフキトレー委員會ノ報告中ニ列舉サレタモノニ就テ、ソノ實施ノ狀態ヲ二三例示シタモノデアルガ、之等ハ全國產業協議會ノ主要職務ト見ルベキモノデアル。尙ホ實際ニ行ハル、所ヲ見ルト此外ニ次ノ如キ附隨職務トモ言フベキモノガアル。

(二) 地方產業協議會及ビ工場委員會設置ノ可否ヲ考查シ、ソノ職務ヲ決定スルコト、及ビ之等ノ協議會及ビ委員會ヨリ送致サレタル提案及ビ決議ヲ審査スルコト

(三) 社會一般ノ利害ニ關スル問題ニ就テハ當該產業ニ關スル信憑スベキ報告ヲ新聞紙ニ提供スルコト

(四) 政府ニ對シ各產業ノ要求及ビ意見ヲ提出スルコト

(五) 政府ノ諮問事項ヲ考查スルコト

以上ハ全國產業協議會ノ職務デアルガ次ニ地方產業協議會ノ職務ハ左ノ如クデアル。

(一) 全國產業協議會ヨリノ附託ニ係ル事項ヲ審議スルコト、及ビ各地方ニ就テ全國產業協議會ノ決議及ビソノ委任事項ヲ實行スルコト

(二) 全國產業協議會ニ對シ獻策ヲナスコト

(三) 當該地方ノ利害ニ關スル問題及ビ工場委員會ヨリノ移送ニ係ル問題ヲ審議シ、且ツ當該地方限リノ問題ニ就テハ實行の任務ヲ掌ルコト。但シ此ノ如キ實行の行動ガ他地方ノ利害ニ影響スト見ルトキハ全國產業協議會ハ之ヲ否認スルコトヲ得ルモノトス。

(四) 利害ノ共通ナル問題ニ就テハ他種產業ノ地方協議會ト協働スルコト。

(五) 一產業内ニ於ケル各種團體及ビ各部局間ノ爭議ニシテ、他ニ之ヲ解決スベキ適當ノ機關ナク、且ツ各工場内ニ於テ之ヲ解決スル能ハザルモノハ地方產業協議會之ヲ審議ス。若シ地方協議會ニ於テ之ヲ解決スル能ハザルトキハ同協議會ハ更ニ之ヲ全國產業協議會ニ附託スルモノトス。

以上ハ英國政府ノ發表シタ參考意見 (Ministry of Labour, Industrial Reports, No.4) 中ニ擧ゲラレタル地方產業協議會ノ職務デアルガ、最後ニ同ジク政府ノ參考意見ニ基イテ工場委員會ノ職務ヲ述ベルコト、スル。即チソノ取扱ヘキ事項ハ左ノ如クデアル。

(一) 工場規則ノ制定及ビ改正

(二) 勞働時間、休憩時間ノ配分及ビ録時

(三) 賃銀支拂ノ方法(支拂ノ時日、支拂證ノ書式等)支拂方法ノ説明、地方的及全國的協定ニ從テ個數拂賃銀ヲ決定スルコト、個數拂賃銀ノ記録、減額等

(四) 不平又ハ苦情ノ原因ヲ除去スルコト

(五) 休日ニ關スル規定

(六) 衛生設備ニ關スル問題(食事、飲料水、厠及洗面處、外套室、通風、暖房、採光、災害防止設備、應急手當、病室等ニ關スル事項)

(七) 工場内ニ於ケル規律及ビ指揮ニ關スル問題(假病、指揮者ノ暴慢、時間勵行、規則ノ公示、揭示板ノ監視等)

或ル工場委員會ハ時間ヲ嚴守セサルモノニ對シテハ科罰ヲ課スルコトニ決シタ。斯クシテ課セラレタ罰金ハ之ヲ慈善事業ニ用フルコトニナツテ居ル。

或ル會社デハ職工長ノ任命ニ就テハ豫メ工場委員會ニ報告シテ其意見ヲ徵シ、場合ニ依テハ工場委員會チシテ他ノ候補者幾名カヲ舉ゲシメタ後、再ビ之ヲ審議シ決定スルコトトシテ居ル。何レニモ決定權ハ會社ニアルモノデアル。

(八) 雇傭ノ條件

(九) 徒弟及少年工ノ訓練

(十) 技術ニ關スル圖書各産業ノ技術的及社會的方面ニ關スル講演

(十一) 生産方法及生産組織ノ改善ニ關スル考查

例ヘバ或ル工場委員會ハ鑄造費用ニ關スル研究ヲ行ヒ、生産方法ニ關スル意見ヲ發表シタガ、企業者側ハ之ヲ以テ最モ有益ナル意見ダト賞讃シテ居ル。又或ル工場委員會ハ労働者ニ對スル道具ノ供給方法ヲ研究シテ之ニ關スル意見ヲ發表シ、經營者側ノ採用スル所トナツタ。

(十二) 俱樂部及義捐金等ノ集金

(十三) 娛樂及ビ運動ニ關スル事項

六 産業協議會制度ニ對スル賛否、及其實施ノ狀況

産業協議會ノ制度ハ英國政府ノ發意ニ出タモノデアルコトハ既ニ述ヘタ通りデアル。隨テ英國ニ於テハ政府ハ此案ニ對スル最モ熱心ナル賛成者ノ一人デア。當時ノアスキス内閣ハ變ツテ現今ノロイドデヨウデ内閣トナリ、現内閣ニ於テモ亦ソノ成立ノ當時カラ今日マデ幾人カソノ人員ニ出入ハアツタガ産業協議會ニ對スルコノ態度ニハ變リハナイ。

英國政府ハ産業協議會制度ノ創設ヲ以テ戰後回復事業ニ對スル不可缺ノ一要件ト看做シ、且ツ之ヲ以テ勞資關係ノ恒久的改善ニ資セントシタモノデア。而

已ナラス政府ハ之ヲ以テ平素各産業ニ關スル代表的意見ヲ徵スルノ常置機關ト看做サントスルモノデアルト言フコトモ既ニ述ヘタ所デアル。此事ハ一ツハ産業協議會制度ノ發達ヲ促サウト言フ政策的ノ意味モアルカモ知レヌガ、産業別組合 (Industrial Union) ヨリモ職業別組合 (Craft Union) ノ方ガ多數ヲ占メテ居ル英國ノ事情カラ推測スルナラバヤハリ主トシテ政府ノ聲明シテ居ル通り實際上ノ便宜若クハ必要ニ基ツクコトト思ハレル。而シテ此事ハ雷ニ聲明タルニ止マラズ其後實際ニ設立サレタ産業協議會ニ就テ日常政府ノ實行シテ居ル所デアル。

英國政府ハ勿論産業協議會制度ノ採用ヲ強制スルコトハシナイガ、次ノ如キ手段ニ依テ此制度ノ發達ヲ助ケントシテ居ル。即チ各産業協議會ト政府ノ各省トノ聯絡ヲ容易ナラシメ、且ツ産業協議會ノ實際ノ狀況ニ關シ一般利害關係者ニ報道ヲ與フル爲メニ勞働省内ニ Industrial Councils Division ナル一部局ヲ設ケテ此種ノ事務ヲ行テ居ルノミナラズ、新ニ産業協議會ヲ設置セントスルモノニ對シテハ必要ナル助言ヲ與フルコトトシテ居ル。又産業協議會ヨリ要求アルトキハ政府トノ連絡委員 (Liaison Officer) トシテ經驗アル官吏ヲ指命シ協議會ニ參加セシムル。但シ此聯絡委員ノ表決權ヲ有セサルコトハ論ヲ俟タヌ所デアル。

以上ハ産業協議會制度ノ發達ヲ助成センガ爲メニスル英國政府ノ施設デア
ルガ、英國政府ハ雷ニ之等ノ手段ニ依テ民間ニ於ケル同制度ノ普及ヲ計ルノミナラ
ズ、政府部内ニ於ケル各種ノ被傭者ニ就テ此制度ヲ實行スルコトトシタ。即チ土
木省産業協議會 (H.M. Office of Works Departmental Council 一九一九年九月十九日創設)
及ビ海軍省産業協議會 (The Admiralty Departmental Joint Industrial Council 一九一九年
十月十日創設)ヲ初メトシテ軍需省(一九二〇年二月十八日)航空省(同年三月二十三
日)陸軍省(同年五月十二日)及ヒ印刷省(同年六月二十八日)ニソレソレノ日附ニ於テ
産業協議會ガ設ケラレ、第一回ノ會議ガ開カレタノデア
ル。以上ハ筋肉勞働者タ
ル被傭者ニ就テノ協議會デアツテ此點カラ言フト民間ノ事業ニ於ケル産業協議
會ト異ナル所ハナイノデア
ルガ、更ニ政府ハ司法行政即チ一般文政ニ關スル官吏、
使用人ニ就テモ同様ノ制度ヲ採用スルコトトシタ。The National Council for the Admini-
strative and Legal Departments of the Civil Service (一九一九年七月二十三日創設)即チ
之デア
ル。但シ此協議會ハ他ノ協議會ト異ナリ、政府ノ諮機問關タルニ止マテ實
行上ノ權限ハナイ。之ハ官廳ニ於ケル職務ノ實行上當然ノコト思フ。政府部内
ニ之等ノ協議會ヲ設ケルニ就テハ當初多少ノ異論モアツタヨウデア
ルガ、政府側

及組合側ノ代表者ヨリ成ル委員會ヲシテ充分審議セシメタ結果ソノ報告ニ基イテ之ヲ組織スルコトナツタノデアル。尙之等政府部内ニ於ケル協議會ニ就テハ種々特異ナル點ガアツテ論述スヘキ問題ハ少クハナイガ夫レハ他ノ機會ニ讓ルコトシタイ。以上ハ中央政府部内ニ於ケル協議會デアルガ、地方團體ノ下ニ屬ク被傭者ニ就テモ亦協議會ガ設ケラレテ居ル。此種ノ協議會トシテハ主ナルモノハ二ツアル。即チ筋肉勞働者ノ爲メニ設ケラレタ The Joint Industrial Council for Local Authorities' Non-Trading Service (Manual Workers) (England and Wales) 及ビ文政ニ關スル吏員ノ爲メニ設ケラレタ The Joint Council for Local Authorities (Administrative, Technical and clerical) 即チ之デアル。此外電氣鐵道及ヒ電力供給ト言フ如キ事業ガ公營ニ屬スル限リ地方團體ハ雇主側ニ立ツノテアルガ、之等ノ事業ニハ私營ノ場合モアルカラ前ニ掲ケタ二者ノ場合トハ自ラソノ關係ハ異ナラサルヲ得ヌ。

以上ハ政府及ヒ地方團體ノ態度デアルガ、次ニ當事者タル資本主側及ビ勞働者側ノ贊否如何ト言フニ、前ニモ述ヘタ如ク産業協議會制度ノ發案者タルフキトレ委員會ハ主トシテ資本主側及勞働者側ノ有力者カラ成立ツタモノデアツテ此案ハ之等有力者ノ協働ノ產物ト見テ差支ナイ者デアル。隨ツテ此兩方面カラハ此

案ニ對シテ大ナル反對ノナカルベキコトハ當初ヨリ豫想スルコトヲ得タコトデアル。政府ガ一般ニ此制度ノ實施ヲ勸說スルニ先ツテ豫メ之ニ就テ全國ノ主要ナル資本主組合及ヒ勞働組合ニ諮ツタ所ガ多數ハ之ニ贊成ノ旨ヲ答ヘタ。此ノ事ハ産業協議會制度ノ將來ノ爲メニ甚ダ喜ブベキ事ト言ハナケレバナラス。

唯ウエツブ一派ノ組合主義者及ヒコール一派ノ組合社會主義者ハ之ヲ冷眼視シ贊成シナイ。又實際ニ於テモ英國最大ノ勞働組合ヲ有スル炭鑛業及ヒ鐵道事業ニ就テハ今尙ホ此制度ノ實行ヲ見ナイ。但シ炭鑛業ニ就テハ所ニ依テハ鑛坑委員會(Pit Committee)即チ他ノ産業ニ就テ言ヘバ工場委員會ニ當ルモノノ組織サレテ居ルモノモアリ、或ハ特ニ勞働時間記錄ノ問題ニ就テ地方委員會(District Committee)及ヒ鑛坑委員會ヲ組織シテ居ル所モアルガ、之等ハ唯部分的ニ且ツ何等ノ統一ナク成立テ居ルノデアツテ、全體トシテノ産業協議會ノ制度トハ餘ホド隔リノアルモノデアル。想フニ之等ノ産業ニ就テハウエツブモ言テ居ル如ク、將來産業協議會ノ成立ヲ見ナイコトデアラウ。其理由ハ種々考ヘラレ得ルコトデアルガ、歸スル所ハ之等ノ産業ニ關スル勞働組合ハ特ニ社會主義的色彩ニ富ンデ居リ、彼等ハ勞資合議ノ形式ニ依テ經營ニ參與スルト言フコト以上ニ資本所有ノ社會

化ヲ行ヒ彼等自ラノ力ヲ以テ經營ヲ行ハンコトヲ翹望シテ止マスト言フコトニアル。ウエツブ一派ノ不賛成ノ理由モ亦茲ニアルノデアルガ、併シ恐ラク彼等モ正面ヨリ此制度ニ對シテ強力ナル反對ヲ試ムルコトハアルマイト思フ。

政府及勞資當事者以外ノ社會一般ノ輿論ハ詳細ニ之ヲ知ルコトハ出來ヌガ産業協議會ノ制度ガ勞働者對資本主間ノ諒解ヲ助ケ、爭議ヲ未然ニ防クノ効果大ナルコトハ事實トシテ廣ク一般ニ認メラルル所デアル。

此制度ハ嘗ニ英國内ニ於テ大ニ一般ノ注目ヲ惹イタノミナラズ、廣ク世界各國ノ注意ヲ惹起シ、諸外國ヨリ英國政府ニ對シテ此制度ニ關スル報告ヲ求ムルモノ甚ダ多ク、北米合衆國ノ如キハ今ヤ之ニ關スル文獻極メテ多シトノコトデアル。又如奈陀デハ一九一九年ノ秋ニ召集サレタ National Industrial Conference ハ全會一致ヲ以テ産業協議會制度ヲ採用スベシトノ決議ヲシテ居ル。

次ニ此制度ノ實施ノ狀況如何ト言フニ、一九二〇年九月末ニ於テハ五十七種ノ産業ニ就テ全國産業協議會蘇格蘭協議會及愛蘭土協議會ヲ併セテガ設立サレテ居ル。即チ五十七ノ全國産業協議會ガアルワケデアル。之ニ於テ代表サルル勞働者ノ數ハ稍古クハナルガ一昨年即一九一九年ノ六月現在ニ於テ約二百萬人ト

報セラレタ。而モ當時ハ全國産業協議會ノ數ハ三十七ヲ數フルノミデアッタ。地方産業協議會ハ全國産業協議會ヨリモンノ發達ガ後レテ居ル。之ハ當然ノコトデ地方産業協議會ハ全國産業協議會ノ決定ニ基イテ組織サレルモノデアアルカラデアアル。一九二〇年九月現在ニ於テ地方産業協議會ノ設置セラレ、若クハ設置ノ計畫アル産業ハ二十八種デアアル。同様ノ理由ニ依テ工場委員會ノ發達ハ前ノ二者ト併行スルコトハ出來ナイ。工場委員會ノ數ニ就テハ報告ヲ得ルコトガ出來ヌノヲ遺憾トスル。唯之ニ就テハフキトレー委員會ノ提案ニ基カズ、既ニソレ以前カラ存在シタ多數ノ工場委員會アルコトヲ指摘シテ置キタイト思フ。即チ在來ノ Shop Stewards (各工場内ニ於ケル勞働組合ノ代表者) Dilution Committees (不熟練勞働者、女子等ノ採用ニ關スル委員) Timekeeping Committee (録時委員) Welfare Committee (幸福設備委員) 等カラ發達シ來ツテフキトレー委員會ノ組織サレタ當時ハ既ニ Works Committee ノ名ヲ有シ若クハソノ實ヲ有シテ居ツタモノ之デアアル。

尙全英國ノ産業協議會ハ時ニ臨時産業回復委員會、何等カノ理由ニヨリ直チニ産業協議會ヲ組織スル能ハサル産業ニ就テ設ケラレタモノデアツテ、同シク勞資同數ノ委員ヨリ成リ、同様ノ仕事ヲスルモノデアアル。一九一九年末ニ於テソノ數

二十四ト共ニ聯合總會ヲ開クコトニナツテ居ル。最近ノ總會ハ昨一九二〇年十二月八日ノソレデアツテ之ハ第二回目ノ總會デアルガ其際ニハ失業保險及ヒ工場委員會ノ發達ニ關シテ討議ガ行ハレタ。尙此總會デハ産業協議會及ヒ臨時産業回復委員會ノ聯合會 (Association) 組織ニ關スル臨時委員ノ報告ガ行ハレ、總會ハ之ヲ採擇シテ更ニ各産業協議會及臨時産業回復委員會ニ諮問スルコトシタカラ、遠カラズ斯ノ如キ産業協議會ノ全體ヲ包括スヘキ聯合機關ノ出現ヲ見ルコトト思フ。(未完)

附記、本文ニハ炭鑛業及鐵道事業ニハ産業協議會ハ設ケラレヌダロウト言フコトヲ書イタガ五月十三日ノ Times ニョレバ此度 Sir Eric Geddes ガ下院ニ提出シタ鐵道法案ニハ鐵道會社各個ニ於テ會社側(吏員)ト勞働者側ノ代表者ヨリ成ル協議會 (Joint Councils) ナ設置スヘシトノ提案ガ含マレテ居ルトノコトデアル